

## 症例検討(1)

# 大腿骨近位部陥入型骨折の1例

旭川赤十字病院 整形外科 森井 北斗 加茂 裕 樹  
高橋 滋 小野沢 司

### 【はじめに】

大腿骨近位部骨折は特に不安定型の場合、治療に苦慮することがある。  
手術治療を行った不安定型大腿骨近位部骨折に関して検討を行った。

### 【症例】

74歳，男性．転倒により左股関節痛が出現．受傷後5日，骨折を指摘され当院に救急搬送された．既往歴；透析歴17年，ASO初診時，全身状態は特に問題なく，左股関節痛以外は特に疼痛の訴えはなかった．X線にて左大腿骨転子部骨折の診断とした．(Evans分類 type 1 group 3, Jensen分類 type 4, AO分類31A2.2) 受傷同日に手術を施行した．

上記の症例をプレゼンテーションし，不安定型大腿骨転子部骨折の治療について文献を踏まえて検討する．



術後1年

## 症例検討(2)

# 手根骨脱臼骨折の一例

札幌医科大学 高度救命救急センター 入船 秀仁

高エネルギー外傷による手根骨脱臼骨折を経験したので報告する。

【症例】22歳，男性．フェリー船上で作業中に誤って約10m下の埠頭に墜落し受傷．ドクターヘリにて当センター搬入．搬入時はショックバイタルで，両下肢の麻痺と右下腿の変形を認めており，FAST陽性であったため，緊急開腹施行となった．帰室後のCTにて胸腰椎の脱臼骨折，破裂骨折，脳挫傷，肺挫傷を認めていた．脊椎の固定術後抜管し，意識状態は比較的クリアであった．この際に右手関節部，左肘関節部の疼痛を訴えたため，精査を行ったところ，右手根骨の脱臼骨折，左肘関節脱臼骨折を認めた．

右手根骨脱臼骨折は舟状骨貫通月状骨掌側脱臼に他の手根骨骨折を合併したもので，OTA分類では70-Bであった．舟状骨は大きまかには4-partでOTA72-B2，月状骨は背側の剥離骨片(OTA71-A)を認め，三角骨にも剥離骨折(OTA75-A2)があり，有頭骨骨折も合併(OTA73